※事務局記入欄

No.D-17

部門名：
校内研修プログラム開発・実践部門

エントリー名：
宇部市立船木小学校　西村浩生
平成３０年度第１回次世代リーダー育成研修

活動名：
道徳教育の推進
学校・家庭・地域で行う道徳教育

解決すべき課題：

前勤務校である山陽小野田市立須恵小学校は、平成２９・３０年度の２年間、山口県教育委員会指定「やまぐちっ子の心を育む道徳教育」プロジェクト推進校の指定を受け、道徳の研究に取り組んでいくことになった。このプロジェクトは、「地域に根ざした道徳教育を展開するため、各地域で指定した推進校における創意工夫ある取組を実施し、その成果を道徳授業セミナー等で、全県に普及する。」ということを目的にしている。そこで、平成２９年３月に全教職員が集まり、須恵小学校の児童の実態把握を行い、課題として我慢や努力すること、相手の立場に立って考えること、善悪の判断を行う事が苦手な子どもが多いということがあげられた。また、次世代リーダー育成研修において、家庭や地域との連携についての重要性を学んだ観点から、道徳教育を学校だけでなく、家庭や地域を巻き込みながら行うことを視点の一つとして取り組んだ。（チーム須恵小）

目標・方針：

児童の実態調査をもとに、「自ら考え、正しく判断し、心豊かに、よりよく生きる子どもの育成」～　他者とのかかわりの中で、自己を見つめる道徳　～を研究主題に設定し、研究を進めることとした。

活動内容：

・全教職員が道徳教育は「特別の教科道徳」を要として、すべての教科・教育活動を通して道徳教育を実践する意識をもつ。
・①特別の教科道徳　教科書、読み物教材等、②楽しく過ごす昼休みの遊び方改善、③豊かな感性と心を育む行事、児童会、④地域や家庭とともに行う心の教育という４つの視点から研修を進める。
・道徳アンケートを年三回ほど行い、子ども達の心の変容を読み取る。
・道徳の授業内容を学校便りや学級通信に載せ、家庭・地域に広げるとともに、道徳ノートを毎学期保護者に見てもらい、コメントを記入してもらう。

活動の成果：

児童の道徳アンケートと保護者へのアンケートの結果を細かく分析した。児童の道徳アンケート設問「道徳で学習したことを家で話すか」については、よく話す・話すと答えた児童が微増であったが、家庭で話している内容に深まり、広がりがみられた。（グラフ１）保護者アンケートからは、あいさつをよく行う児童が２倍に増えたことや自分の子どもの道徳性が高まっていると実感している保護者が ２ 倍以上に増えていることが分かった。（グラフ２・３）保護者が我が子の心の成長を実感していると言える。また、平成３０年 11 月に行った道徳セミナーには 160 名以上の参加者があり、そのアンケートには授業や児童の姿勢を評価する内容が多くあった。

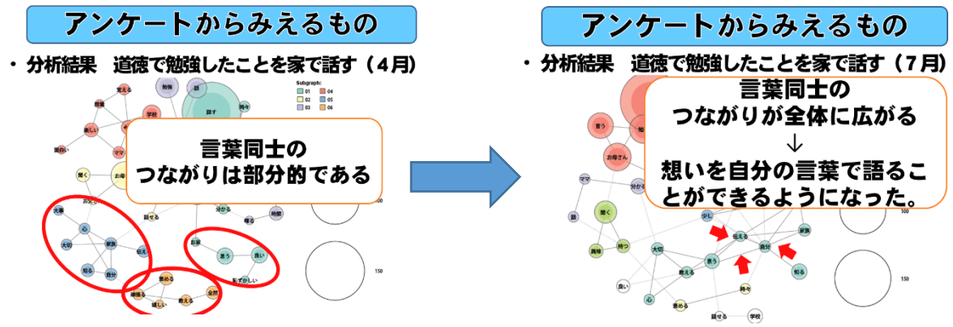
アピールポイント（アイディアや工夫）：

・今回、今まで学校が行ってきたことをもう一度見つめ直し、少しの改善をもってより道徳教育としての効果が上がるように工夫を行った。次世代リーダー育成研修において、業務改善・働き方改革の重要性を学び、職員の負担にならず持続可能な研修体制を組むことができた。
・チーム須恵小を合い言葉に、学校教職員が一致団結し、道徳教育の推進を行っていった。また、それをサポートしてもらうために、家庭や地域に情報発信を積極的に行い、理解・協力を得ることができた。児童を取り巻く多くの大人が協力し合い、心の教育を行うことができた。
・統計学の専門家である宇部フロンティア大学講師の三島先生と共同研究という形をとり、アンケート結果の分析も細かく行うことができた。専門家の協力を得ることで、より多角的な視点で研究を進めることができた。

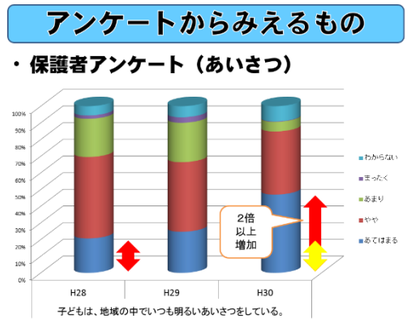
写真１　授業風景（かかわり合い）

写真２　道徳セミナー（全体会）

グラフ１（道徳で勉強したことを家で話す児童がどのようなことを話すか記述したもの分析結果）



グラフ２



グラフ３

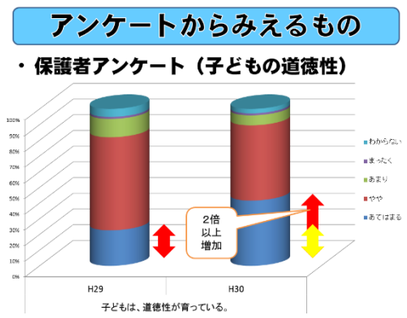
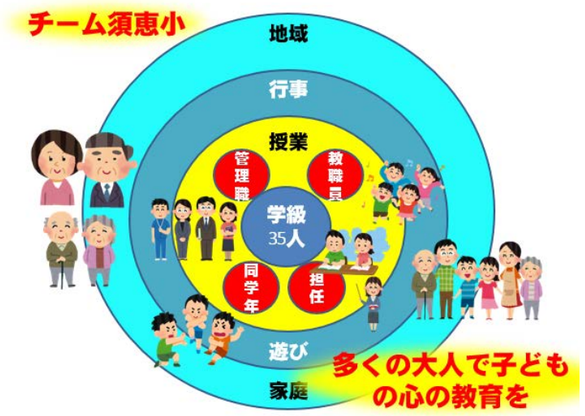



図１　チーム須恵小のイメージ（児童を担任だけでなく、同学年・管理職・家庭・地域で見守り、育てていく。また、授業だけでなく、遊びや行事からも道徳教育を行う視点をもつ）